

第108期 中間報告書

令和2年4月1日～令和2年9月30日



株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、第108期第2四半期連結累計期間（令和2年4月1日から令和2年9月30日まで）における事業の概況をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

令和2年12月



代表取締役社長

亀井文行

コーポレート・スローガン

くらしの中に未来をひらく

企業理念

当社は地域社会に密着し、人々の生活に役立つ総合商社として活動発展することをめざす。

事業の概況

企業集団の事業の経過及び成果

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大が続いており、各国・各地域で都市封鎖、人・物の移動制限、外出規制が行われ、消費需要の減少や生産活動が停滞するなど、極めて厳しい状況となりました。

国内経済でも、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の停滞や景気の急速な悪化に加え、更なる感染拡大や長期化が懸念されるなど、極めて厳しい状況となりました。

このような環境のもと、当社グループは、新型コロナウイルス感染拡大により事業活動に大きな制約を受けながらも、お客様や従業員の安全確保と感染拡大防止を最優先としつつ、商品の安定供給とサービスの提供継続に努めました。また、グループの総合力向上と経営基盤を強化し将来にわたる持続的な成長を図るため、新規顧客獲得を推進するとともにM&Aによる事業領域の拡大に取り組み、Kamei Vietnam Joint Stock Company及びグループ会社3社（ベトナム社会主義共和国においてワインの輸入・卸販売を展開）を当社グループに迎え入れ、海外・貿易事業の強化を図りました。さらに、環境の変化に対応すべく、組織、財務、物流などの改革を推進し経営の効率化に努めました。

以上の結果、売上高は原油価格下落に伴う石油製品価格の低下などにより1,730億24百万円（前年同期比18.3%減）、営業利益は新型コロナウイルス感染拡大による自動車販売台数の減少や外食需要の減少などにより35億5百万円（前年同期比9.6%減）、経常利益は40億89百万円（前年同期比7.8%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、関連会社の株式を交換したことに伴う特別利益を計上したことなどにより27億24百万円（前年同期比9.2%増）となりました。

なお、第108期の中間配当金につきましては、当社普通株式1株につき15円とさせていただきます。

（単位：百万円）

	第2四半期 連結売上高	第2四半期 連結営業利益
第108期	173,024	3,505
第107期	211,907	3,875
第106期	216,840	2,972

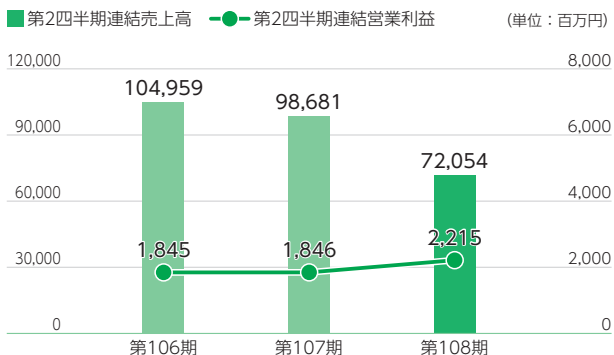
事業の概況

エネルギー事業



当事業部門における石油関係につきましては、ガソリンスタンドでの販売は、外出自粛などにより需要が減少するなか、設備の定期的な消毒・従業員の手洗い・マスク着用など感染拡大防止に向けた取り組みを実施し、サービスの提供継続に努めたものの厳しい状況となりました。その他産業用燃料などの法人需要向け販売は、経済活動の制限などにより石油製品需要が減少する厳しい環境のなか、非対面営業など感染拡大防止に配慮した営業活動の展開などにより新規・深耕開拓に努めました。

LPガス関係につきましては、外出自粛や営業時間短縮により飲食店などの業務用の販売が減少した一方、家庭向けの販売が伸長しました。

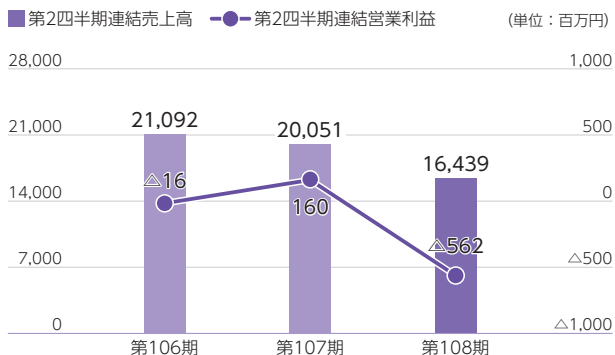


食料事業



当事業部門における食品関係につきましては、外出自粛や営業時間短縮などにより外食需要が大幅に減少したため、飲食店向けの畜産加工製品や農産品の販売が減少し低調に推移しました。

酒類関係につきましては、地酒などの差別化商品の販売強化や輸入ワインの取扱商品拡充に努めたものの、外食需要の減少などにより低調に推移しました。



建設関連事業



当事業部門における建設資材関係につきましては、鉄骨工事やメガソーラー架台の大型工事が完工したことなどにより好調に推移しました。

ハウジング関係につきましては、ハウスメーカー及び工務店への住宅設備機器の提案営業や、新規・深耕開拓に努めたものの低調に推移しました。

なお、第1四半期連結会計期間から、従来「住宅関連事業」としていた報告セグメントの名称を「建設関連事業」に変更しております。当該変更は名称の変更のみであり、セグメント別の経営成績に与える影響はありません。

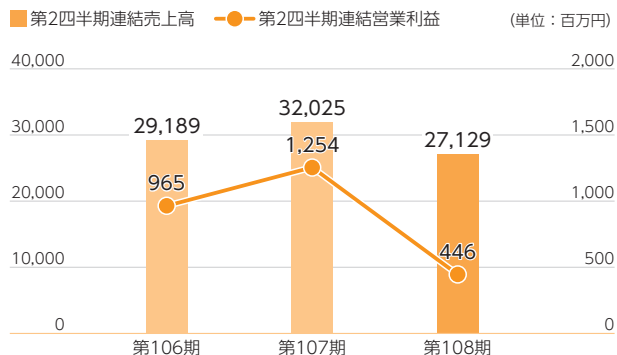
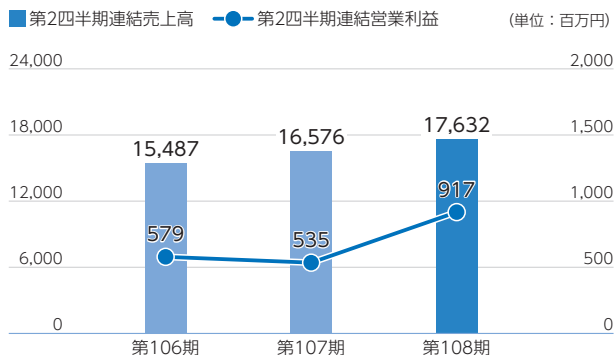
自動車関連事業



当事業部門における国産車販売につきましては、新規出店による店舗網の拡充や法人営業の強化に努めたものの、新型コロナウイルス感染拡大による消費マインドの悪化などにより販売台数が減少し低調に推移しました。

輸入車販売につきましても、消費マインドの悪化などによる販売台数減少に加え、店舗のリニューアルに伴う販管費の増加などにより低調に推移しました。

レンタカー関係につきましては、法人客の新規・深耕開拓に努めたものの、外出自粛による需要減少などにより厳しい状況となりました。



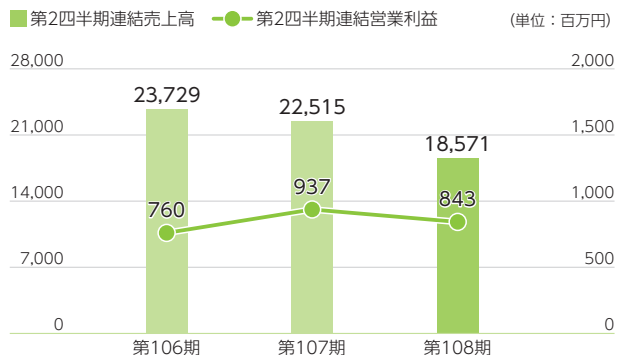
事業の概況

海外・貿易事業

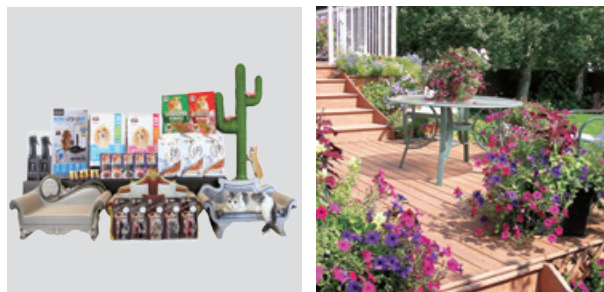


当事業部門における海外事業関係につきましては、コロナ禍による巣ごもり需要により米国内で展開する日系スーパーマーケットでの生鮮品販売の伸長などにより順調に推移しました。

貿易事業関係につきましては、新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞により、アジア向けベアリングなどの輸出やロシア産水産物の輸入が減少したことなどにより低調に推移しました。

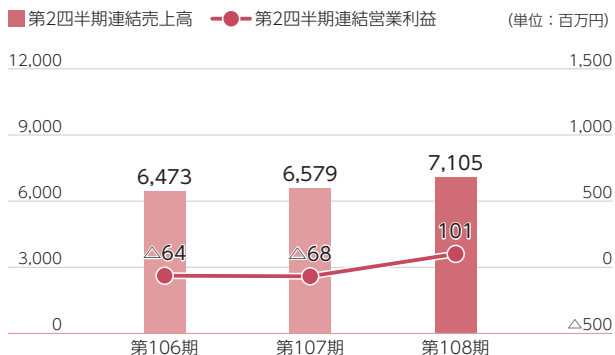


ペット関連事業



当事業部門におけるペットフード・用品関係につきましては、自社ブランド商品の開発強化とホームセンターなどへの販路拡大に努めたことにより前年同期並みとなりました。

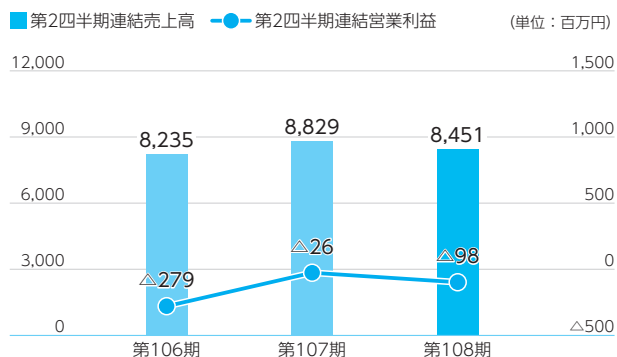
園芸用品関係につきましては、外出自粛に伴い家庭用園芸資材の販売が増加したほか、自社ブランド除草剤・肥料の拡販や新規・深耕開拓を推進したことにより好調に推移しました。



ファーマシー事業



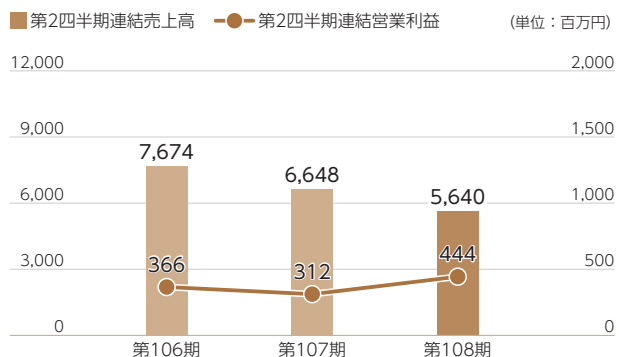
当事業部門につきましては、地域の皆様から選ばれる「かかりつけ薬剤師・薬局」への取り組みを推進したものの、医療機関への受診抑制により来局者数が減少し低調に推移しました。



その他の事業



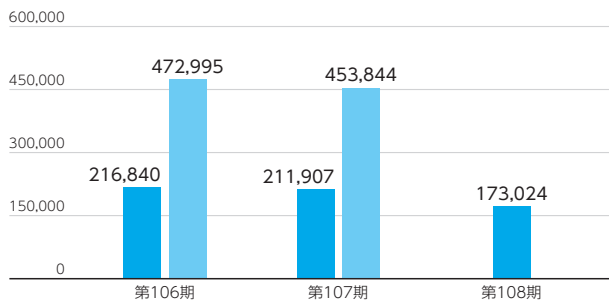
その他の事業につきましては、オフィス機器販売、リース業、運送業及び保険代理店業などを展開しており、新規顧客の獲得や提案営業の強化に努めました。



連結業績の推移

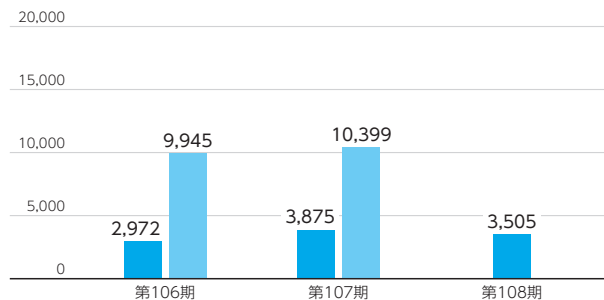
売上高

(単位：百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



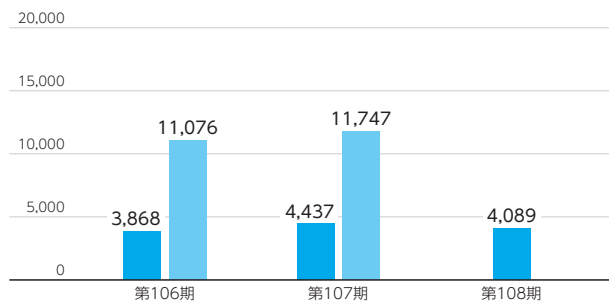
営業利益

(単位：百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



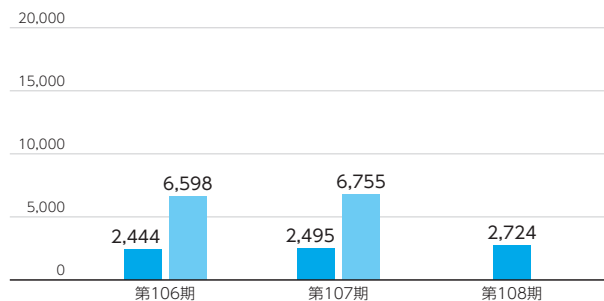
経常利益

(単位：百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



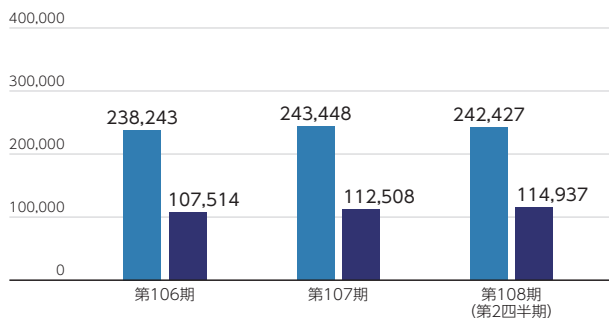
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益

(単位：百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



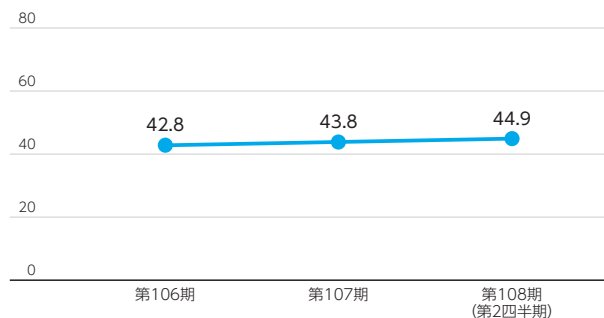
総資産・純資産

(単位：百万円) ■ 総資産 ■ 純資産



自己資本比率

(単位：%)



連結財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期末	前 期 末
	令和2年9月30日現在	令和2年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	142,972	144,943
固定資産	99,454	98,504
有形固定資産	71,375	71,502
無形固定資産	4,865	4,177
投資その他の資産	23,213	22,824
資産合計	242,427	243,448
(負債の部)		
流動負債	101,265	104,910
固定負債	26,224	26,028
負債合計	127,490	130,939
(純資産の部)		
株主資本	106,434	104,212
資本金	8,132	8,132
資本剰余金	7,248	7,248
利益剰余金	95,281	93,059
自己株式	△4,227	△4,227
その他の包括利益累計額	2,453	2,418
非支配株主持分	6,049	5,877
純資産合計	114,937	112,508
負債・純資産合計	242,427	243,448

■ 四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	令和2年4月1日から 令和2年9月30日まで	平成31年4月1日から 令和元年9月30日まで
売上高	173,024	211,907
売上原価	141,082	178,074
売上総利益	31,941	33,832
割賦販売未実現利益戻入額	4,700	4,323
割賦販売未実現利益繰入額	4,784	4,505
差引売上総利益	31,857	33,650
販売費及び一般管理費	28,352	29,774
営業利益	3,505	3,875
営業外収益	954	956
営業外費用	370	394
経常利益	4,089	4,437
特別利益	744	14
特別損失	312	79
税金等調整前四半期純利益	4,521	4,372
法人税等	1,564	1,683
四半期純利益	2,957	2,688
非支配株主に帰属する四半期純利益	233	193
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,724	2,495

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	令和2年4月1日から 令和2年9月30日まで	平成31年4月1日から 令和元年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,144	4,887
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,190	△6,099
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,090	3,404
現金及び現金同等物に係る換算差額	△206	△210
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,656	1,982
現金及び現金同等物の期首残高	35,241	32,914
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,898	34,897

会社情報 (令和2年9月30日現在)

会社の概要

商号	カメイ株式会社
英文名称	KAMEI CORPORATION
本社所在地	仙台市青葉区国分町三丁目1番18号
設立	昭和7年12月29日
資本金	81億32百万円
連結対象会社数	連結子会社 45社 持分法適用会社 4社
売上高	(令和2年3月期) 連結 4,538億44百万円 個別 2,978億28百万円
従業員数	(令和2年3月末) 連結 5,112名 個別 1,990名
カメイグループ	国内56社、海外法人21社

役員

代表取締役社長	亀井文行
専務取締役	高橋啓之
専務取締役	安部仁市
常務取締役	亀井昭男
常務取締役	高橋清光
常務取締役	佐藤淳一
取締役相談役	亀井淳一
取締役	遠藤良一
取締役	鷲足直樹
取締役	菊地信寛
取締役	佐藤清悦
社外取締役	尾町雅文
社外取締役	三井精一
常勤監査役	佐々木昌幸
社外監査役	後藤忠雄
社外監査役	佐山博康

株式の状況

発行可能株式総数	87,281,000株
発行済株式の総数	37,591,969株
株主数	2,913名

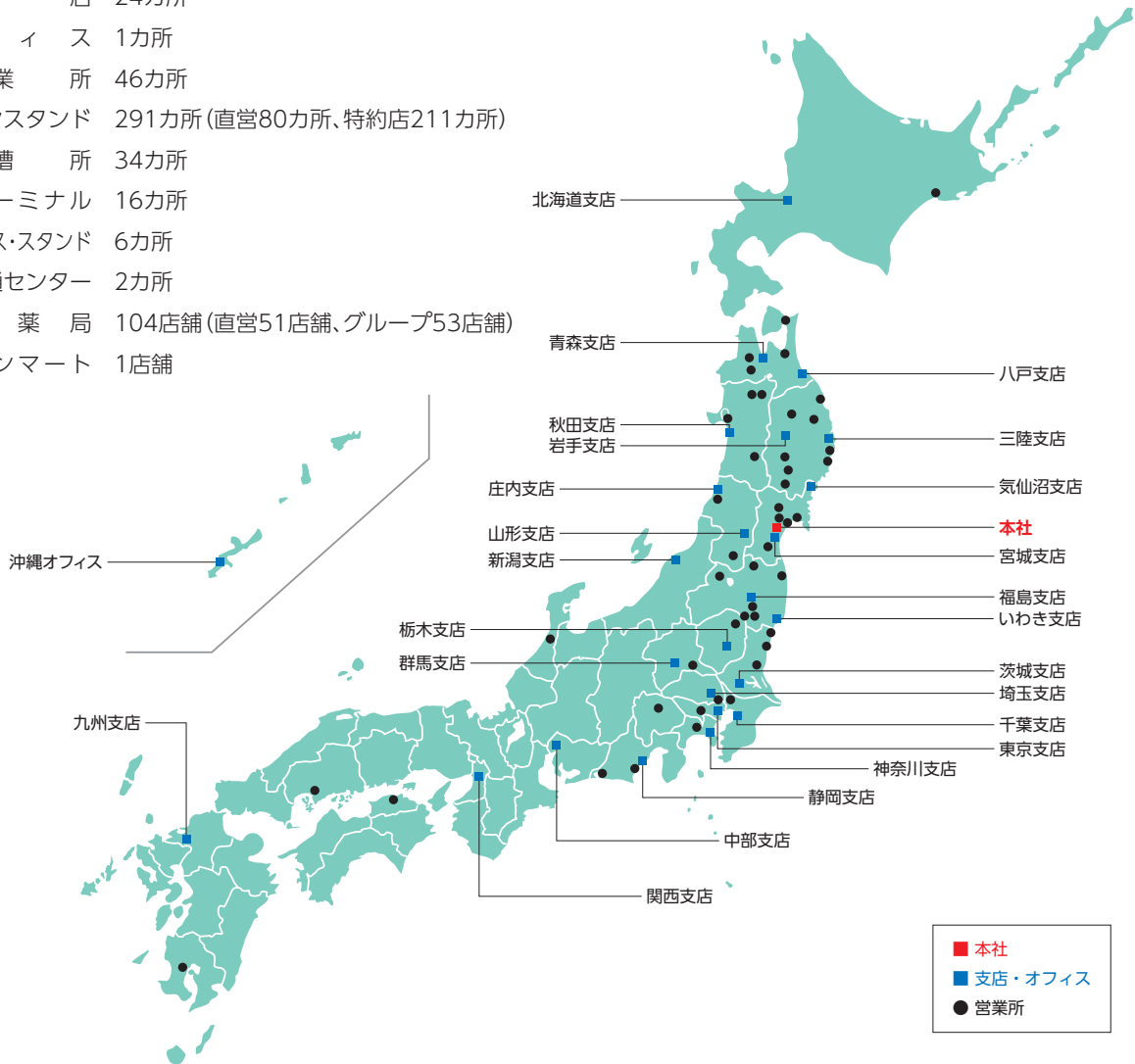
大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
有限会社亀井興産	3,000	8.93
亀井文行	2,506	7.46
カメイ不動産株式会社	2,443	7.27
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR : FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND	2,100	6.25
公益財団法人亀井記念財団	1,650	4.91
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,595	4.75
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	1,234	3.67
亀井昭伍	1,014	3.02
有限会社グリーン・ウッド	1,000	2.98
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	735	2.19

(注) 1. 当社は自己株式3,991,247株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 国内ネットワーク

支店	24カ所
オフィス	1カ所
営業所	46カ所
ガソリンスタンド	291カ所 (直営80カ所、特約店211カ所)
油槽所	34カ所
ガスターミナル	16カ所
オートガス・スタンド	6カ所
食料流通センター	2カ所
調剤薬局	104店舗 (直営51店舗、グループ53店舗)
グリーンマート	1店舗



グループ紹介

エネルギー事業

東北ガス株式会社
栃木液化ガス株式会社
株式会社パシフィック
最上ガス株式会社

株式会社新白河エルピーガス供給センター
株式会社センナンエネルギー
さいとうガス株式会社

食料事業

株式会社樋口米穀
株式会社池光エンタープライズ
ウイングエース株式会社
株式会社ヴィントナース
アグリ株式会社
サンエイト貿易株式会社
株式会社コダマ
株式会社アンジェリーナ
シーズンダイニング株式会社

建設関連事業

カメイエンジニアリング株式会社

ファーマシー事業

株式会社遠藤薬局
株式会社まろん
株式会社水戸薬局
株式会社アイム
エムシーエス株式会社
株式会社エイエム・ファーマシー
株式会社板東薬品
M2メディカル株式会社
株式会社オアシーズ

ペット関連事業

株式会社オーシマ小野商事
ペットアイ株式会社
トムソンコーポレーション株式会社

その他の事業

カメイ物流サービス株式会社
カメイ商事株式会社
ミツモト商事株式会社
株式会社宮城テレビ放送
株式会社ミヤギテレビサービス
富士オイルサービス株式会社
能代第一急便株式会社

塩釜石油基地防災株式会社
株式会社フィットネスプロモーション
株式会社クロノスメディカルデバイス
株式会社ネクスト仙台
パーソルテンプスタッフカメイ株式会社
株式会社一・四・一
石巻漁港石油配送協同組合

自動車関連事業

仙台トヨペット株式会社
山形トヨペット株式会社
カメイオート株式会社
カメイオート北海道株式会社
オリックスレンタカー・カメイ株式会社
株式会社トヨタレンタリース仙台
仙山テクノクラフト株式会社
株式会社ジェームス仙台

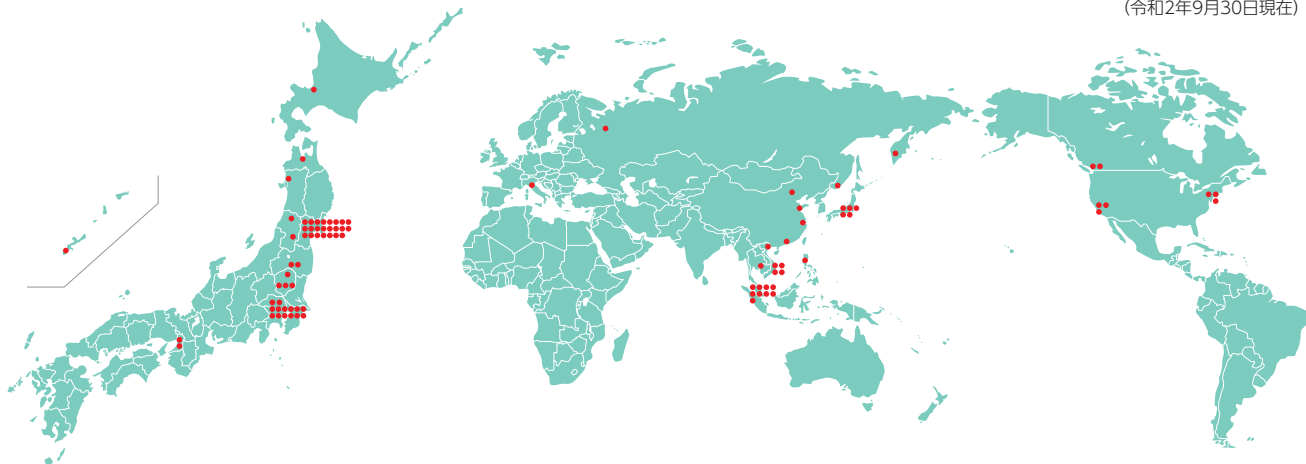
海外・貿易事業

カメイ・プロアクト株式会社
三興メビイス株式会社
KCセントラル貿易株式会社
サンプラザ株式会社
有限会社ナバホスポーツ

海外法人

Kamei North America Co., Ltd.	Translub Marine Pte. Ltd.
Mitsuya Corporation	Lee Huat Yap Kee & Co. Pte. Ltd.
YNJ, LLC	Kamei Energy Singapore Pte. Ltd.
Central Boeki U.S.A., Ltd.	Santouka Kamei Singapore Pte. Ltd.
Central Boeki Calif., Ltd.	Kamei Vietnam Joint Stock Company
Katagiri & Co., Inc.	Phu & Em Trading Service Co., Ltd.
Santouka Kamei Canada Foods Ltd.	Dai Minh Service And Trading Co., Ltd.
Kamei Singapore Pte. Ltd.	Bao Chau International Distribution Co., Ltd.
Imei (Exim) Pte. Ltd.	Qingdao Saint Sports Co., Ltd.
Lee Huat Yap Kee Pte. Ltd.	Sanko Mabis (Beijing) Corporation
LHYK Marine Pte. Ltd.	

(令和2年9月30日現在)



トピックス

Kamei Vietnam Joint Stock Companyの 株式取得に関するお知らせ

当社は、令和2年8月31日、ベトナムにあるワイン輸入卸販売会社3社の持株会社であるKamei Vietnam Joint Stock Company（以下、KVJ社）を当社グループに迎え入れました。

ベトナムのワイン輸入販売会社をグループに迎え入れる

ベトナムは人口や所得が増加しており、成長が見込める市場を持つ国であります。

経済成長に伴い、アルコール飲料の消費は10年前より90%近く増加しており、なかでもワインについては毎年10%以上のペースで増加をしております。

このたびグループに迎え入れた、KVJ社及び同社のグループ会社は、世界中から選りすぐりのワインを輸入し、高級リゾートホテルやレストラン、スーパーマーケットなどに販売しております。ベトナムにおける輸入ワイン販売の先駆者の企業であり、地域に密着した確固たる基盤を構築しております。



ベトナムの最大都市、ホーチミン市

東南アジアでの事業基盤を強化

当社グループは、ベトナムでの食料事業展開により、成長著しい東南アジアにおける事業基盤を強化するとともに、更なる海外事業の拡大に取り組んでまいります。

■ Kamei Vietnam Joint Stock Company（持株会社）

所在地 384/8 Huynh Van Banh, Ward 14, Phu Nhuan District, Ho Chi Minh City, Vietnam

■ Phu & Em Trading Service Co., Ltd.（ワインの輸入卸販売）

所在地 489 Xo Viet Nghe Tinh, Ward 26, Binh Thanh District, Ho Chi Minh City, Vietnam

■ Dai Minh Service And Trading Co., Ltd.（ワインの卸販売）

所在地 305 Vinh Hung quarter, Vinh Hung Ward, Hoang Mai District, Hanoi City, Vietnam

■ Bao Chau International Distribution Co., Ltd.（ワインの卸販売）

所在地 256, Street 2 Thang 9, Hoa Cuong Bac Ward, Hai Chau District, Da Nang City, Vietnam



トピックス

カメイオート株式会社 「ジャガー・ランドローバー仙台」 リニューアルオープンのお知らせ

当社のグループ企業でありますカメイオート株式会社（以下、カメイオート）は、令和2年5月28日、仙台市若林区の「ジャガー・ランドローバー仙台」をリニューアルオープンいたしました。

最新CIに基づく 美しいデザインのショールーム

カメイオートは東北地区にて「ボルボ」「ジャガー・ランドローバー」の正規ディーラーとして、車両の販売を行っております。

リニューアルした「ジャガー・ランドローバー仙台」は、グローバルで展開する最新CIを採用し、左右対称のデザインが重厚な安定感と調和のとれた美しさを表現しております。



最新CIを採用した店舗デザイン

くつろぎの店内で理想の1台をご提案

清潔感のある白を基調に木の温かみが溢れるくつろぎの店内にて、車体の色や内装などのオプションを細やかにシミュレートできる最新設備を用いながら、こころゆくまでご要望に合った理想の1台をお選びいただけます。

同店ではこれからもサービスを拡充し、皆様にご満足いただけるお車を提案してまいります。



ゆったりとくつろげるラウンジスペース

■ ジャガー・ランドローバー仙台

仙台市若林区六丁の目西町8-65
TEL 022-288-9666



カメイオート株式会社

所在地 仙台市若林区六丁の目西町8-65
(ボルボ・カー仙台内)

T E L 022-288-6751

U R L <http://www.kameiauto.co.jp/>

トピックス

仙台トヨペット株式会社 「レクサス CPO石巻」オープンのお知らせ

当社のグループ企業であります仙台トヨペット株式会社は、令和2年4月17日、宮城県石巻市に「レクサス CPO 石巻」をオープンいたしました。

■ 東北初のレクサスCPO（認定中古車）専門店

「レクサス CPO石巻」は東北初となるレクサスの認定中古車専門店です。

店舗は石巻市の中心部を走る国道398号線沿いにあり、多くの皆様にレクサスブランドをアピールできる立地となっております。同店には多数の車両を揃えており、お客様に最適なレクサスをお選びいただけます。

■ レクサスの名にふさわしいU-Carをお届け

レクサスとの出会いを通じて「高級の本質」をお届けしたい。新車のオーナー様だけにとどまらないその想いは、CPO（Certified Pre-Owned）というプログラムによって結実しました。

レクサスならではのクオリティと、お客様を安心で満たすレクサスのおもてなしを皆様にお届けしてまいります。



■ レクサス CPO石巻

宮城県石巻市大街道西

三丁目1-5

TEL 0225-25-7280



仙台トヨペット株式会社

所在地 仙台市宮城野区苦竹二丁目8-1

T E L 022-232-1111

U R L <https://www.p-sendai.co.jp/>

事業所 宮城県内20店舗
レクサス宮城野



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
単元株式数	100株
公告掲載紙	日本経済新聞

株式事務に関するご案内

1. 証券会社等の口座に記録された株式

株主様の住所変更、単元未満株式買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2. 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。

3. 未受領の配当金のお支払いについて

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

